

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 二島 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

| 主として「知識」に関する問題(A) | 主として「活用」に関する問題(B) |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 | <ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

(2) 生徒質問紙調査

| 生徒質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

3. 教科に関する調査結果の概要

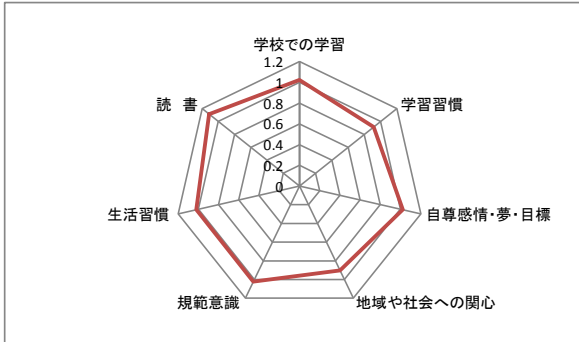
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

| 本年度の結果 | 国語A | | 国語B | | 数学A | | 数学B | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 24.5 | 77 | 6.3 | 70 | 22.2 | 62 | 6.8 | 45 |
| 全国 | 24.8 | 77 | 6.5 | 72 | 23.3 | 65 | 7.2 | 48 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|-----|-------------|--|-----------------------|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的に全国平均を上回っているが、読むこと(読む能力)に関する問題に課題がある。国語が好きである生徒も全国平均を上回っている。 | 全国平均正答率との比較 上回っている |
| | よくできた問題 | ・「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の領域について全国平均を上回っている。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・「読むこと(読む能力)」の問題が全国平均を下回っている。 ・語句の使い方を工夫して文章を書いたり、相手にわかりやすいように語句を選択して話す問題で無回答率が高くなっている。 | |
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均と同程度であるが、文章で書く問題について最後まで努力したかについて全校平均を下回っている。読み取ったことに基づき、そのことについて文章で書き表すことに苦手意識を持っている生徒がいる。 | 全国平均正答率との比較 同程度 |
| | よくできた問題 | ・記述式の問題は全国平均と同程度である。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・選択式問題、短答式問題は全国平均を下回っている。 | |
| 数学A | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的に全国平均よりも下回っているが、数学が好きである生徒が全国平均を上回っている。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | ・「資料の活用」については、全国平均との差が小さくなっている。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・「数と式」「図形」「関数」等基礎的基本的な問題の繰り返しの学習が必要な生徒が多い。 | |
| 数学B | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的に全国平均よりも下回っているが、数学が好きである生徒が全国平均を上回っている。 ・事柄が成り立つ理由を説明したり、数学的な表現を用いて証明や説明をしたりする問題の無回答率が高い。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | ・「資料の活用」については、全国平均との差が小さくなっている。 ・選択式・短答式問題は全国平均との差が小さいが、証明や説明をする問題は無回答率が高い。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・「数と式」「図形」「関数」等基礎的基本的な問題の繰り返しの学習が必要な生徒が多い。 ・数学的な表現を用いて証明や説明をする問題の無回答率が高い。 | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析 |
|--|
| <成果> ・「失敗を恐れない」「将来の夢・目標」「困っているときに助ける」「話し合い活動」「めあて・まとめ、振り返り」「読書活動」等については全国平均を上回っている。 <課題> ・「家庭学習時間」「最後まであきらめずに努力する」「地域や社会への関心」等については全国平均を下回っている。 ・自学ノートの充実で、家庭での学習時間を増加させたい。 ・地域活動へ参加する機会を徐々に増やしていく。 |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

| |
|--|
| ・指導力の向上を目指して、全教員が年間1回授業を公開し、参観・協議する。・「めあて」と「まとめ」の提示の徹底。・生徒たちが、主体的に活動する場面を作り、話し合い活動・発表活動をする等して、言葉の力を高める。・評価規準を明確にして、生徒の状況を細かく確認する。 ・書くことの習慣化・ノート指導を行い、質の高いノートを紹介したり、賞賛や励ましのコメントを記入したりする。・毎時間の授業のまとめや学校行事の後、必ず感想や学んだことを書いて整理する。・現在取り組んでいる「朝自習(読書→人権→視写→国・数・英基礎問題)」、「自学ノート」、「授業改善」、「根拠をもとに自分の意見や考えを伝える力を育成する」等の取組を継続して推進する。 ・数学では、基礎基本の計算力問題の繰り返し学習に重点を置き、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・授業のまとめや振り返りについて、一定量の文章でまとめさせることを習慣化していくことで、文章で書く問題に最後まであきらめずに努力する力を育成する。 |
|--|

② 家庭生活習慣等に関する取組

| |
|---|
| ・テスト前2週間前に配布される「試験範囲表」に、次のような学習のポイントを「二島中 家庭学習の目安5か条」として記載し、意識して学習に取り組ませる。1.テスト迄に、できるようになっておくべきこと。2.テスト迄に、仕上げておくべきである課題。3.今回の範囲のノート整理のポイント。4.今回の範囲の最も大事な内容。5.基本的な勉強の仕方、評価の基準等を各教科から示し、家庭学習として、具体的に何をすべきか分かりやすく提示する。・全校生徒に「自学ノート」による家庭学習に取り組ませる。毎週月曜日に提出させ、点検・評価をすることで、家庭学習の習慣化を図る。また、家庭学習チャレンジ・ハンドブックを活用し、家庭学習について指導する。また、家庭にも通信等を使って、理解と協力を得る。 ・テストや学力検査から見られる課題を全教員、保護者に周知し、理解と協力を得る。・学校通信、HP、PTA理事会、家庭教育学級、学年懇談会等の中で、保護者に説明し、家庭との連携を図る。小中連携担当を中心に学習の仕方の連携を図る。 ・本校生徒会作成の「ケータイ・スマホ使用の5か条」の周知を図り、生徒会活動の一貫として生活習慣の改善に取り組む。 |
|---|